

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・小社合同調査
第9回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」結果より

期待が高い「高校教育」、不安が残る「大学入学者選抜」

調査概要

- 調査実施者 一般社団法人全国高等学校PTA連合会 / 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の各3校ずつ計27校の公立高等学校2年生2クラス分の高校生と保護者
- 調査期間 2019年9月1日～10月25日
- 調査方法 学校を通じた質問紙による自記式調査
①高校生:ホームルームにてアンケートに回答
②保護者:高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1,997人 ※全問無回答1人を除く
保護者1,759人 ※全問無回答6人を除く

【注】調査対象校のうち1校において、下記設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。
図表1 「高校の教育」に関する教育改革への期待と不安
図表2 「大学入学者選抜」に関する教育改革への期待と不安
図表9 子どもとのコミュニケーションや行動で教育改革を踏まえて特に心掛けたいこと

【高校生】

- 性別 男子47.0% 女子48.5% その他1.1% (無回答3.4%)
- 高校タイプ 普通科71.3% 専門学科21.8% 総合学科6.9%
- 高校卒業後の希望進路
大学72.1% 短大1.7% 専門職大学0.5% 専門職短大0.2% 専門学校9.1%
海外の大学等0.3% 就職15.0% その他0.9% (無回答0.5%)

【保護者】

- 続柄 父親11.6% 母親85.3% その他0.5% (無回答2.6%)
- 子どもの性別 男子47.4% 女子50.0% その他0.2% (無回答2.4%)
- 子どもの高校卒業後の希望する進路
大学57.2% 短大1.1% 専門職大学1.5% 専門職短大0.3% 専門学校3.7% 海外の大学等0.2%
就職9.9% その他0.6% 子どもが希望する進路なら何でもよい23.6% (無回答1.8%)

教育改革への期待と不安

第9回となる今回の調査は、大学入学共通テスト(以下、共通テスト)導入初年度に当たる高校2年生とその保護者の「高大接続改革」の捉え方を大きなテーマとして設計。共通テストの「英語外部資格検定試験活用」と「記述式問題の導入」が見送られる前の昨年9～10月に実施、その時点での意識を探っている。本稿では、改革の「高校の教育」「大学入学者選抜」それぞれの結果に加え、保護者の進路選択への関わりの変化、将来に向けて必

要な能力について報告する。

保護者・高校生共に6割が高校の「探究学習」に期待

高大接続改革についての設問では、「高校教育」「大学教育」「大学入学者選抜」の三位一体の教育改革であること、そして子ども達のために「新しい学力の3要素」として①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体性・多様性・協働性の育成が求められることを明記。そのうえで改革の内

容への「期待」と「不安」を尋ねた。

まず『高校の教育』の改革についてみると、保護者も高校生も期待が大きい結果となった(図表1)。

保護者の「期待・計」の1位は「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(61.7%)。以下、「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」(56.8%)、「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、

図表1 保護者・高校生『高校の教育』に関する教育改革への期待と不安(全体/各単一回答)

	期待・計		不安・計		わからない	無回答	期待・計	不安・計	[期待]-[不安]
	期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である					
生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	24.9	36.8	18.7	5.2	7.7	6.8	61.7	23.9	37.8
学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	21.4	35.4	17.9	4.6	13.7	6.9	56.8	22.6	34.2
先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	19.1	36.8	24.8	6.2	6.8	6.3	55.9	31.0	24.9
生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動につなげる「高校生のための学びの基礎診断」が始まる	21.4	33.7	18.1	5.1	13.9	7.7	55.2	23.2	32.0
ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる	19.1	35.7	20.4	5.4	12.4	7.0	54.8	25.8	29.0

※保護者「期待・計」の降順ソート

保護者	高校生
<p>■ 期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一律の授業ではなく、自分に合った学習ができる。 ●暗記型ではなく自ら考えて行動できる人を育成する取り組みだと思ふ。 ●子どもの持っている本来の力、能力が最大限に引き出せるシステムや関わり。 ●子どもの将来を考えると「主体性」を重視する点では期待できる。 ●自分で考え、調べ、解決し自主性を育てるところ。 ●基礎学力の定着と、それを表現できる機会が増えること。 ●学力だけではなく、生徒個人個人の才能が発見されやすくなる。 ●学びが深まって、国際社会でも求められる力をつける教育がなされるとよい。 <p>■ 不安なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●とても優秀な一部の子たちだけでなく、皆が身につけることができるのか。 ●全ての学校を改革ではなく、自分に合う学校に進めるよう多様なスタイルにして生徒が選択できるようになるとよい。 ●「ポートフォリオ」が導入されるとそのためのボランティア活動になり、自主性が失われないのか。 ●格差の拡大(学力、家庭の経済力・地域による)。 ●教育者(教員)側が十分対応できるか。とり残される子どもがいるのでは。 	<p>■ 期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●苦手な学習内容を自分のペースで学習できる。 ●生徒が主体的となることで自分の意思をしっかりと持てるようになること。 ●学び合う授業なので、わからないことが聞きやすくなる。 ●自ら調べたり考えたり、学び合ったりするのは良い ●自信をもって自分の気持ちを表すことが出来るようになりそう。 ●AIにはできない臨機応変を持った人が生まれる。 ●「ポートフォリオ」によって経験を生かし、次の目標を設定する。 <p>■ 不安なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分には主体性がないので、ついていけるか不安だ。 ●ついていけない人がどんどん突き離されそう。 ●話したり自分の考えを見つれたりするのが苦手だから、学び合う授業は不安。 ●主体性や協働性は人によって判断の基準が違う。 ●高校の授業が果たして本当に主体性を育てるものによって変わっていくのか。 ●経済的に余裕のある人が活躍するシステムになっているので、今以上に経済・地域格差が進むこと。 ●授業の改革があるが、都会と田舎では田舎が不利になるのではないか。

学び合う授業に変わる」(55.9%)と続く。高校生の1位は「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」で「期待・計」は70.2%に及ぶ。これは保護者では5位であり、両者の期待の方向にはややギャップがみられる。2位は「生徒が主体的に考え、学び合う授業」(62.8%)、3位は「探究学習」(62.2%)であった。

保護者も高校生も共通して、ここ数年高校の現場でも取り込まれてきたアクティブ・ラーニングや、学習指導要領の改訂で推進される「探究学習」への期待が高い。また、全ての項目で高校生、保護者共に「期待」が「不安」を大きく上回っており、改革の方向性が広く受け入れられていることが分かる結果となった。期待の理由としては、保護者から

は「自ら考えて行動できる人を育成する取り組み」等、社会で必要な能力が身につくことへの期待が挙げられている。高校生は「一人ひとりへの最適な学習」「主体性が持てる」等の教育内容への期待が挙がる。不安の理由は保護者、高校生共に、改革の流れについていけるかどうか心配、格差拡大への懸念等が挙げられている。

「AO入試、推薦入試での学力評価の必須化」は保護者の4割以上が期待

『大学入学者選抜』の改革についてみると、保護者の「期待・計」1位は「総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜

(推薦入試)でも、学力評価が必須となる」(44.6%)で、唯一、期待が不安を上回る。「大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される」(39.4%)が2位で続くが、

これは高校生では1位で、期待(48.4%)が不安(34.1%)を+14.3ポイントと大きく上回っている。高校生、保護者共に7項目中6項目で不安が期待より大きく、特に「記述式問題」や「英語4技能評価」について

図表2 保護者 高校生 『大学入学者選抜』に関する教育改革への期待と不安 (高校生:進学希望者、保護者:子どもを進学させたい希望者/各単一回答)

		期待・計		不安・計		わからない	無回答	期待・計	不安・計	[期待]-[不安]
		期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である					
総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる	保護者	13.2	31.4	23.3	16.5	9.8	5.7	44.6	39.9	4.7
	高校生	20.6	22.5	21.2	23.1	10.9	1.7	43.1	44.3	-1.2
大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される	保護者	11.8	27.6	25.0	14.8	15.1	5.7	39.4	39.9	-0.5
	高校生	26.0	22.4	19.4	14.6	15.6	2.0	48.4	34.1	14.3
調査書が変わり、「学力の3要素」すべての評価が記載される	保護者	9.3	26.8	25.1	21.7	11.0	6.1	36.1	46.9	-10.8
	高校生	19.6	22.3	20.5	23.4	11.8	2.3	41.9	43.9	-2.0
英語について、従来の「読む」「聞く」に「書く」「話す」を加えた4技能が評価される	保護者	10.0	23.2	27.5	30.4	4.0	4.9	33.1	57.9	-24.8
	高校生	20.4	16.9	20.2	35.8	5.0	1.7	37.3	56.1	-18.8
各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポートフォリオなどで主体性が評価される	保護者	7.1	22.9	27.7	28.9	7.9	5.5	30.0	56.6	-26.6
	高校生	16.7	19.6	23.4	30.3	8.1	1.8	36.3	53.8	-17.5
民間が実施している英語資格試験が活用されるようになる	保護者	9.1	19.0	23.7	36.0	6.6	5.7	28.1	59.7	-31.6
	高校生	18.2	17.4	21.5	34.2	7.1	1.7	35.6	55.6	-20.0
現在の「大学入試センター試験」が、記述式問題も出題される「大学入学共通テスト」に変わる	保護者	4.2	17.4	28.9	36.9	7.5	5.0	21.6	65.8	-44.2
	高校生	12.7	14.0	20.6	44.7	6.2	1.8	26.7	65.3	-38.6

※保護者「期待・計」の降順ソート

保護者
<p>■ 期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学力評価(AO入試・推薦入試)が必須。学ぶ意味・理由につながる。 ● 詰め込んだ知識量の評価でなく、思考力、主体性などが評価されること。 ● 一人ひとりが多角的に学び、評価されるのは良いと思う。 ● 学力だけではなく個々の能力を以前よりも丁寧に伸ばしてもらえそう。 ● 今までのテスト形式では拾いきれなかった子ども達の力を正しく評価できる。 ● 暗記するだけでは対応できない大学入試に変われば日本の教育制度自体が変化する可能性がある。 <p>■ 不安なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学入学共通テストと英語資格試験についてまだはっきりとわからないことが多い。 ● 準備期間も短すぎる。 ● 教育改革の内容が入試と英語資格試験の情報に偏りすぎていて本質が見えない。 ● 大学入学共通テストの改革発表(英語外部試験)が遅い。記述式採点は採点者によって差が出ない。 ● 一人ひとりの力を本当に正しくはかれるのか。 ● わが子がこの流れについていけるか不安。

高校生
<p>■ 期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な面から長期的にその人を判断し、入学すること。 ● アドミッションポリシーが公表されると、大学が求める人材が分かり、大学についてイメージしやすくなるので良い。 ● 学力以外の面も総合的に評価されるかもしれない。 ● 成績や学力だけでなく、高校での活動も、知ってもらえる。 ● 学力だけでは分からない一人ひとりの個性や能力を見てくれる。 ● 英語が4技能になったので、社会でより使えるようになる。 <p>■ 不安なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入学者選抜について不明瞭なことが多いこと。 ● 自分の代で入学者選抜が変わるのが不安である。 ● テストが変わると過去問もなく、対策のしようがない。 ● 大勢が受けるテストを筆記にすることで公正・公平な採点ができるのか。 ● 評価基準が広くなり、全てに力を注げるか心配。 ● 外部検定を経済的理由により受けられない人がいること。 ● 民間の英語資格試験の活用。使用するかどうかが現段階で全て決まっていないというのはいかがなものか。

は、導入見送り前の調査時点に保護者、高校生共に大きな不安を抱えていたことが分かる。不安の理由は、保護者も高校生も共通テストに関連するものに集中し、「情報の少なさ・不明瞭さ」「採点の公平性の担保」「入試対策の難しさ」を挙げるものが多かった。

一方、期待の理由をみると保護者からは、AO入試や推薦入試での学力評価必須化が子ども達の学ぶ理由につながることを評価する声や、「暗記するだけでは対応できない大学入試に変われば日本の教育制度自体が変化する可能性がある」のコメントにあるように、変革への期待等、高大接続改革の趣旨が伝わり賛同する声も挙がる。高校生からは、高校での活

動や個性等、入試学力以外の面も総合的に評価される多面的な評価への期待が高い。

今回の調査からは、入学者選抜への「期待」が高いのは個別大学の入試改革であることが分かる。各大学が、保護者や高校生の期待に応える改革ができるかが問われている。

子どもの在籍校の改革対応 保護者の4割「わからない」

図表3は高校教育の改革に戻り、高校生自身あるいは子どもの在籍校での改革への対応実施状況の認知を尋ねたものだ。保護者は「わからない」が最も多く41.0%を占め、「感じている」は23.9%にとどまる。一方、高校生では「感じている」は38.1%であっ

た。高校の改革への対応は保護者にはまだ伝わっていない現状が浮かび上がる。

では「感じている」回答者はどのような取り組みからその変化を感じているのだろうか(図表4)。保護者の1位は「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(46.2%)。以下、2位「先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる」(41.2%)、3位「学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる『ポートフォリオ』が導入される」(35.2%)となっている。

一方、高校生では1位は「ポートフォリオ導入」(57.8%)、2位は「生徒が主体的に考え、学び合う授業」(50.8%)、3位は「探究学習」(47.5%)であった。多面的指導の前提である「ポートフォリオ導入」は、回答者全体を母数とすると2割強ではあるものの、高校生の実感として高校現場で進みつつあることが分かる。

図表3 保護者 高校生 在籍している高校での教育改革への対応を感じるか (全体/単一回答)

	感じている	まだ感じていない	わからない	無回答
保護者 (n=1759)	23.9	29.2	41.0	6.0
高校生 (n=1997)	38.1	25.9	33.4	2.7

図表4 保護者 高校生 具体的に変化を感じる取り組み内容(高校での教育改革への対応を「感じている」回答者/複数回答)

	0	20	40	60(%)
生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	保護者		46.2	
	高校生		47.5	
先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	保護者		41.2	
	高校生		50.8	
学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	保護者		35.2	
	高校生		57.8	
生徒自身が基礎学力の定着を把握し、今後の学習活動につなげる「高校生のための学びの基礎診断」が始まる	保護者		19.0	
	高校生		9.7	
ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる	保護者		12.1	
	高校生		10.3	

※保護者のスコアの降順ソート

※保護者 「その他」3.5、「無回答」9.5
※高校生 「その他」2.5、「無回答」4.6

保護者の進路選択への関わり

不安な入試の情報収集を中心に
進路選択行動に関与を強める保護者

アドバイスが難しい要因は
入試制度等の情報不足が1位

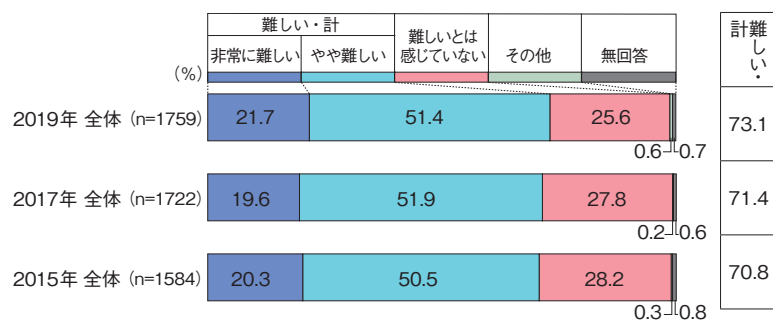
子どもの進路選択において保護者の73.1%はアドバイスが難しいと感じており、うち「非常に難しい」とする割合は21.7%で2017年から2.1ポイント増加した(図表5)。

アドバイスが難しい理由は(図表6)、「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」が2017年に引き続

きトップで、45.5%から+9.2ポイントの54.7%へ大きく増加し、2009年の調査開始以来初めて半数を超えた。保護者の気がかりなことのコメントからも、「新しく導入される共通テストについて各大学の方針が不明確だったり、情報量が少ないこと」等、最新の入試制度の情報不足が保護者の懸念となっている。2位は「社会がどのようなようになっていくのか予測がつかないから」。コメントにも「社会の変化が

激しく、5年先の社会がどのようなになっているか予測不能なため、大学を出ても仕事があるのか不安」等の声が挙がる。3位は「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから」。2位、3位は共に2017年から割合も順位も変化は見られない。昨年の調査時点では社会や経済の影響による要因は大きな変化は見られず、入試制度改革へ関心が集まっていることが顕著な結果となった。

図表5 保護者 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか(全体/単一回答)

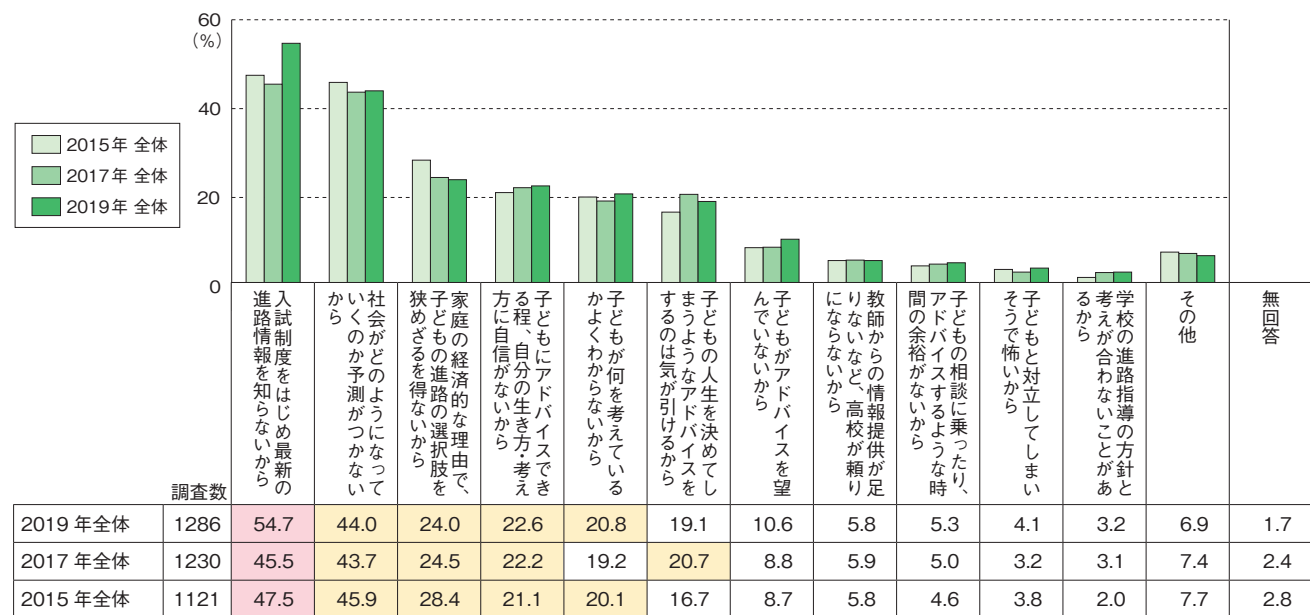


保護者

■ 進路選択について心配なことや気がかりなこと

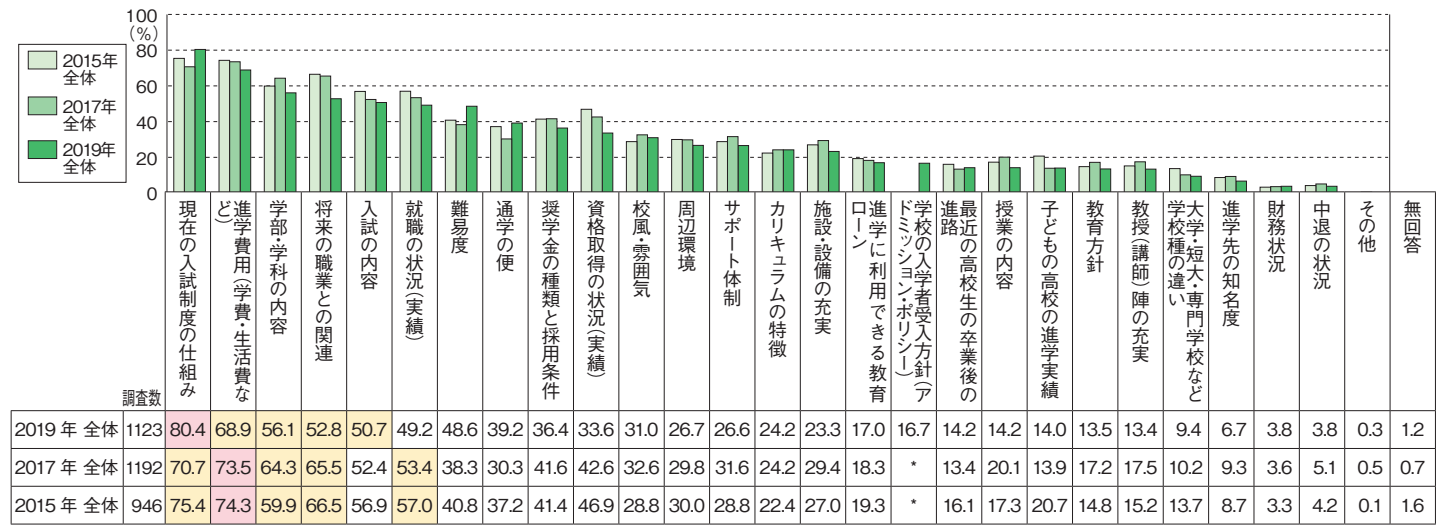
- 新しく導入される共通テストについて各大学の方針が不明確だったり、情報量が少ないこと。
- 社会の変化が激しく、5年先の社会がどのようなになっているか予測不能なため、大学を出ても仕事があるのか不安。
- 親の要望にそって大学を決めていないか、本当に自分の意思で決定しているのか。
- 最終的に子どもに進路決定させる方針だが、経済的な事情で進路を変更しなければならないことが子どもに申し訳ない。

図表6 保護者 進路選択についてアドバイスを難しく感じる要因(アドバイスが「難しい」回答者/複数回答)



※「2019年」降順ソート ※各年で最も高い ※各年で2~5番目に高い

図表7 保護者 重要な進学情報(進学希望者/複数回答)



※「2019年」降順ソート ※「*」は該当カテゴリーなし ※各年で最も高い ※各年で2~5番目に高い

図表8 保護者 進路選択行動の関わり方(進学希望者/各単一回答)

関わり方	経験+意向・計 (%)			経験+意向・計 (%)
	行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことはない、今後行うつつもりはない	
興味をもった学校の入試方法を調べる	43.5	41.8	10.4	85.2
どんな学部、学科、コースがあるかを調べる	57.7	27.4	10.9	85.1
子どもに合う分野をアドバイスする	67.0	17.4	10.8	84.3
子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる	53.0	30.5	12.2	83.4
興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む)	46.9	33.5	15.9	80.4
将来の職業をアドバイスする	61.2	18.4	16.0	79.6
具体的な受験校を子どもにアドバイスする	52.9	25.0	17.4	77.9
興味をもった学校の資料請求をする	30.5	42.2	22.4	72.7
大学が短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする	50.9	16.5	27.2	67.4
就職が進学かを選ぶ際にアドバイスする	54.2	12.7	27.3	67.0

※「経験+意向・計」のスコアで降順ソート

「入試方法を調べる」保護者
「経験+意向」が85%へ増加

子どもに進学を希望する保護者に進路選択で重要な情報を尋ねた(図表7)。1位は2017年から9.7ポイント増の「入試制度の仕組み」で、2位「進学費用」と順位が逆転した。

また、子どもの進路選択における保護者の関わりを見ると(図表8)、

「行ったことがある」行動の1位は「子どもに合う分野をアドバイスする」(67.0%)だが、「経験+意向・計」の1位は「興味をもった学校の入試方法を調べる」(85.2%)であった。入学者選抜改革の影響の色が濃く、保護者の関心の高さがうかがえる。

また、グラフデータは割愛するが2017年と比較すると、多くの行動で「行ったことがある」割合が増えてお

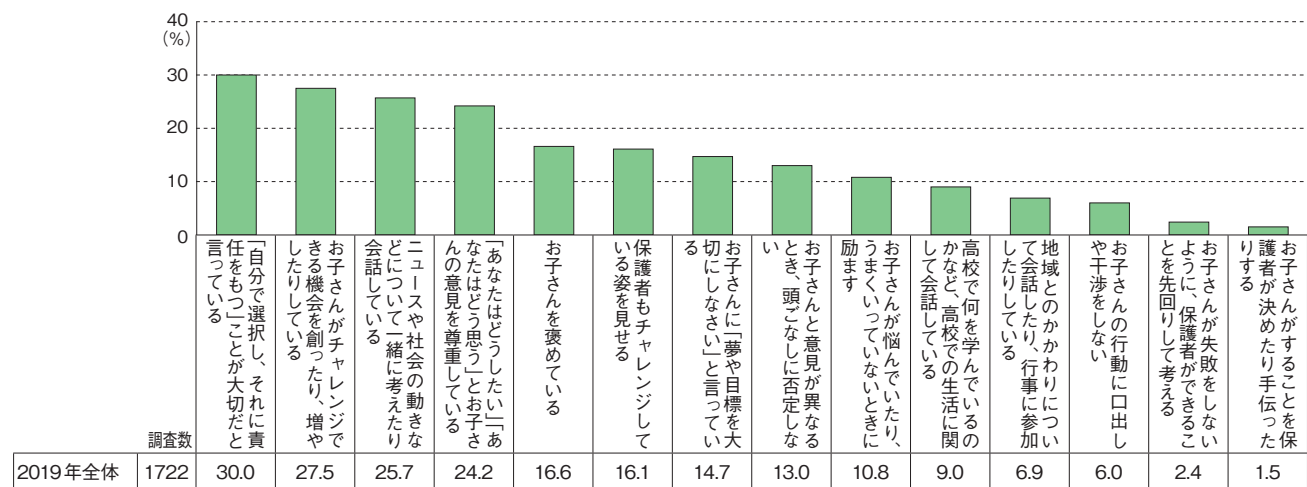
り、「具体的な受験校を子どもにアドバイスする」は前回34.7%から+18.2ポイントと大きく増加した。また、経験が増えた行動の多くは、情報収集(分野、学科コース、受験校)や資料請求等、アドバイスから一歩踏み込んだ具体的な進路選択行動に及ぶ。保護者の進路選択への関与がより一層強まっているようだ。

将来に向けて育成したい力

主体性を育みチャレンジを促し 社会の動きを考えさせたい

高大接続改革の流れは親子のコミュニケーションにも影響を与えるのだろうか。保護者に、子どもとの日常のコミュニケーションや行動で「教育改革を踏まえて今後『特に心がけたい』と思うもの」を選んでもらったのが図表9だ。1位は『自分で選

図表9 保護者 教育改革を踏まえて、子どもとのコミュニケーションや行動で「特に心掛けていきたい」こと(全体/3項目まで選択)



※「2019年全体」降順ソート

保護者

- 子どものやる気やモチベーションを高めるために心がけていること
- たとえ失敗しても挑戦したり、やり切ったりしたことを褒める。
- まずは自分で考え、行動させる。助けを求められてから手を貸す。
- 失敗しても、また再チャレンジすればいいと励ましている。
- 相談には乗るが、最終決定は本人に決めさせる。
- 息子の行動や言動を否定せず、理解するよう努力している。いいと思うところを褒めるようにしている。
- 本人がやりたいと思ったことは、やらせるようにしている。いろいろな場所へ連れて行き、知らない世界がたくさんあることを伝えるようにしている。

択し、それに責任をもつ』ことが大切だと言っている(30.0%)。2位「お子さんがチャレンジできる機会を創ったり、増やしたりしている」(27.5%)、3位「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」(25.7%)、4位『あなたは どうしたい』『あなたは どう思う』とお子さんの意見を尊重している」(24.2%)までが僅差で続いた。保護者が子どものやる

改革の流れは、保護者の日常のコミュニケーションにも影響を与えるかもしれない。

「主体性」「発信力」「実行力」の育成が今後の課題

図表10は社会で働くにあたって必要とされる能力として、経済産業省が定義する『社会人基礎力』から12の能力要素を提示し、「将来、社会で働くにあたって必要とされる能力」「現在持っている能力」を選んでもらっ

「探究学習」をはじめ、高校現場での主体性を育む教育への変化に保護者も期待

気を高めるために心がけていることのコメントを見ても、既に意識的に自立やチャレンジを促すことを心がけている回答も散見される。

前項において、保護者は目の前の進路選択行動では子どもへの関与が強まっていることが分かったが、将来を意識させると子どもに自立を促す行動の必要性を認識させる結果となった。長期的視点に立てば、教育

たものだ。

保護者が考える「必要とされる能力」の上位3項目は「主体性」「実行力」「規律性」。高校生は「主体性」「実行力」「発信力」であった。特に「主体性」は保護者、高校生共に過半数が必要と回答している。

「必要とされる能力」と「現在持っている能力」のギャップをみると、差が大きかったのは、保護者も高校生も「主体性」「実行力」「発信力」であり、共通に不足を感じていることが

分かる。進学する高校生にとっては、これらの能力を身につけていくことが高校卒業後も引き続き課題となる。つまり、大学は保護者や高校生から、これらの力を育成する教育が期待されているといえる。

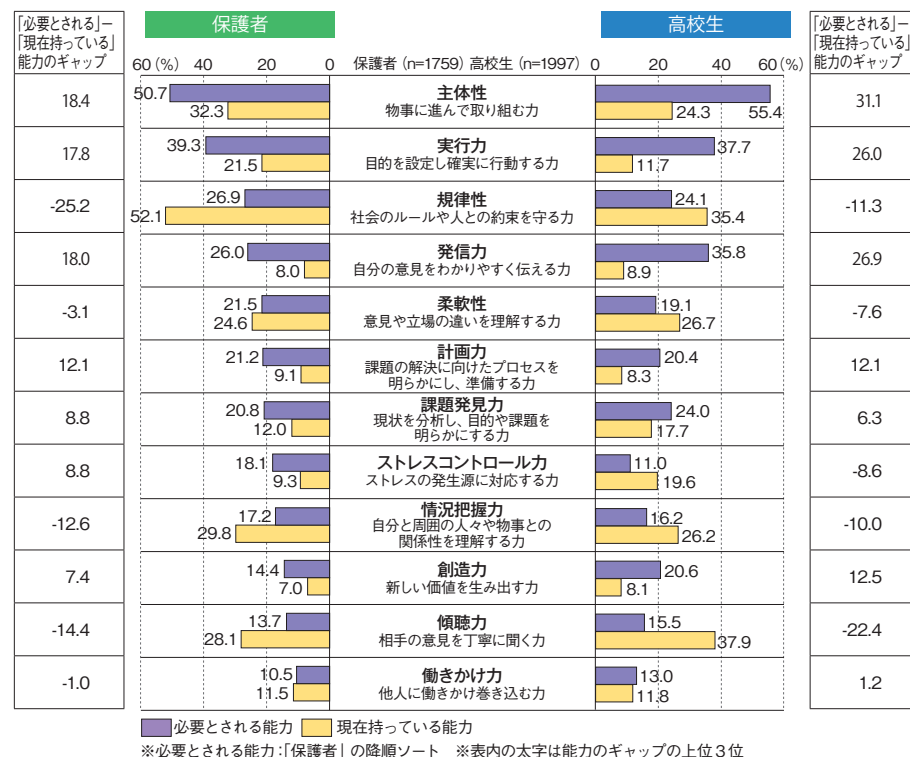
保護者の期待が高まる 「主体的に学ぶ授業」と 「探究学習」での基礎力育成

では、それら社会で必要な力を身につけるために学校生活(高校)を中心とした活動全般の中でどんな場が有効と考えているのか(図表11)。

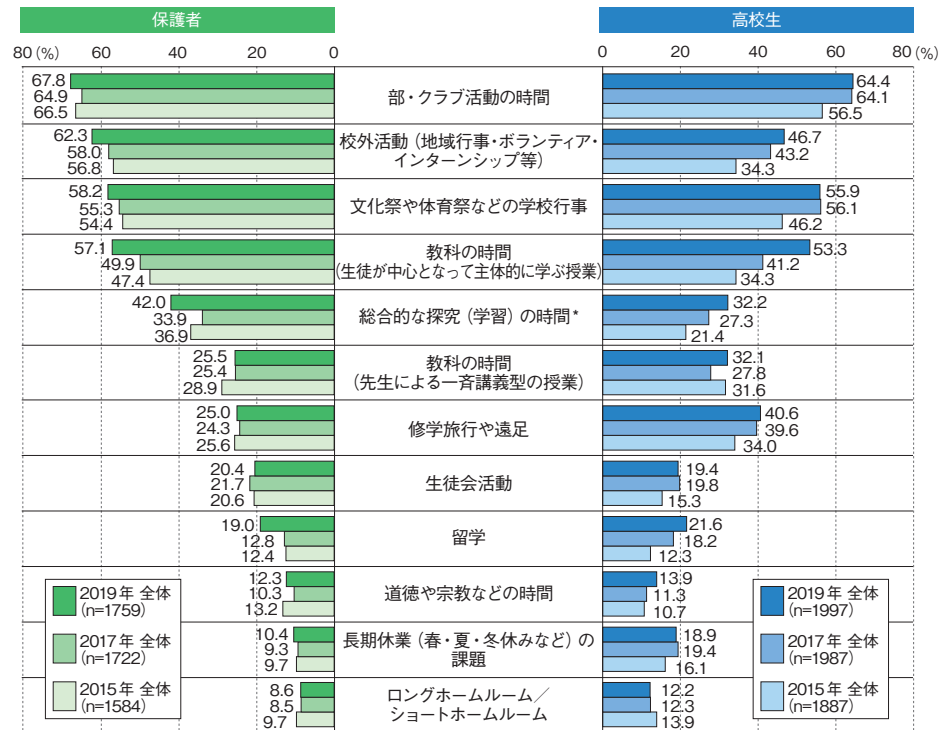
保護者、高校生共に「部・クラブ活動の時間」が過去3回の調査と変わらず1位であった。保護者の2位は「校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等)」、3位「文化祭や体育祭などの学校行事」。高校生では2位「文化祭や体育祭などの学校行事」、3位「教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業)」と続く。

経年の変化として、「教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業)」の増加幅の大きさに着目したい。高校生では2015年:34.3%→2017年:41.2%→2019年53.3%と大幅に増加。保護者でも2017年より7.2ポイント上昇し4位に上がった。また「総合的な探究(学習)の時間」も、保護者では2017年から+8.1ポイントと大幅に増加し、期待の大きさが表れている。「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」と「探究学習」は共に新学習指導要領の柱だが、どちらにも将来必要な能力を育成する場として、保護者や高校生の注目が高いことがうかがえる結果となった。

図表10 保護者 高校生 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力(全体/3項目まで選択)



図表11 保護者 高校生 社会に必要な能力を身につけるために有効な場(全体/複数回答)



※保護者「2019年全体」の降順ソート

*2015、2017年は「総合的な学習の時間」

※高校生 [その他] 2015年: 2.0、2017年: 2.5、2019年: 1.2

※保護者 [その他] 2015年: 5.8、2017年: 2.3、2019年: 2.9

[その他] 2015年: 1.1、2017年: 1.2、2019年: 1.3

[その他] 2015年: 7.7、2017年: 7.5、2019年: 5.1

AIの影響と将来社会への展望

AIの影響への意識が強まる中 前向きに未来を見据える高校生

AIは将来に「影響がある」 保護者は前回より18ポイント増

図表12はAI（人工知能）等の技術革新の普及・発達は将来に影響があると思うか尋ねたものだ。

高校生では「影響がある」は65.9%であった。一方、保護者では56.5%と高校生を下回るが、2017年からは+17.8ポイントと大幅に増加しており、AIについての報道がテレビやネットで多く取り上げられるようになったこの2年で、保護者もその影響が具体的にイメージできるようになったようだ。

AIが普及していく時代に子ども達に必要な力についてのコメントをみると、「創造」「クリエイティブ」「発想」「感情」等のキーワードが散見される。高校生も保護者も、AIにはな

い人間ならではの価値を発揮し、AIと共生するために、AIを使いこなす能力を磨くことを意識していることが分かる。

「将来の社会は好ましい」 保護者で増加、37%へ

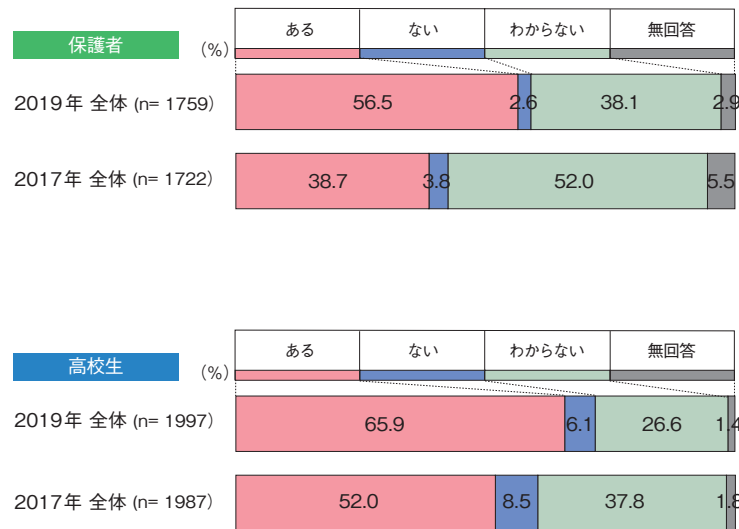
そんなAIの影響や、グローバル化が進んでいく未来を保護者・高校生はどのように捉えているのか、将来社会への認識を尋ねた(図表13)。

自分自身の将来に対して高校生は半数を超える51.4%が「好ましい社会だ」としている。経年で増加し続けていたが、2017年からは横ばいとなっている。それぞれの理由を尋ねると、好ましくない理由としては、AIの影響による雇用減やブラック企業等の就職への不安、ネット社会の情報過多に翻弄される社会、オリ

ック後の景気後退等が挙げられた。好ましい理由としてはグローバル化の進展による交流の活発化、働き方改革の推進や男女平等の流れ、個性を尊重する社会への期待感等、変化を前向きに捉える高校生像も浮かび上がる。

一方、保護者については「好ましい社会」だと回答した割合は37.1%で「好ましくない社会だ」(46.8%)が大きく上回るが、経年比較すると「好ましい」は着実に増加している(2015年:27.8%→2017年:34.0%→2019年:37.1%)。それぞれの回答理由をみると、「好ましくない」理由としては、AIの普及や外国人との競争で就職環境が厳しくなること、経済格差の拡大、解決先送り感がある環境問題や年金問題、高齢化社会への対応等への不安感から前向きな未来を描ききれな

図表12 保護者 高校生 自分の将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか(全体/単一回答)



保護者

- AI(人工知能)が作業をするには人間と違いエラーなど起こさない。完璧な仕上がりは人間より優れている。だが、人間にはAIにはない人間社会で大切なもの“思いやり”を持っている。グローバル化を生きる多様性を重視するそんな力を子どもたちには大事にしてほしい。
- 新しい価値や仕事を想像する力。
- 人間力と倫理観。
- 正しい情報を入手し、自ら判断する力。
- AIと共存する力が必要。

高校生

- AIでは再現できない能力や技術を用いて新しい物を創造する力。
- AIと共生していく力。AIを利用する力。
- AIを適切に、有効的に利用しつつ、人間の主体性を失わない。
- アイデア力、「答えのない課題」に対する意欲、知識、対応力。
- クリエイティブな発想を生み出す力。
- AIにまさる能力がなくても、人には感情があるから、人と一緒に仕事するうえで人の気持ちを考えて働ける力。
- AIと共に生きていく適応能力。

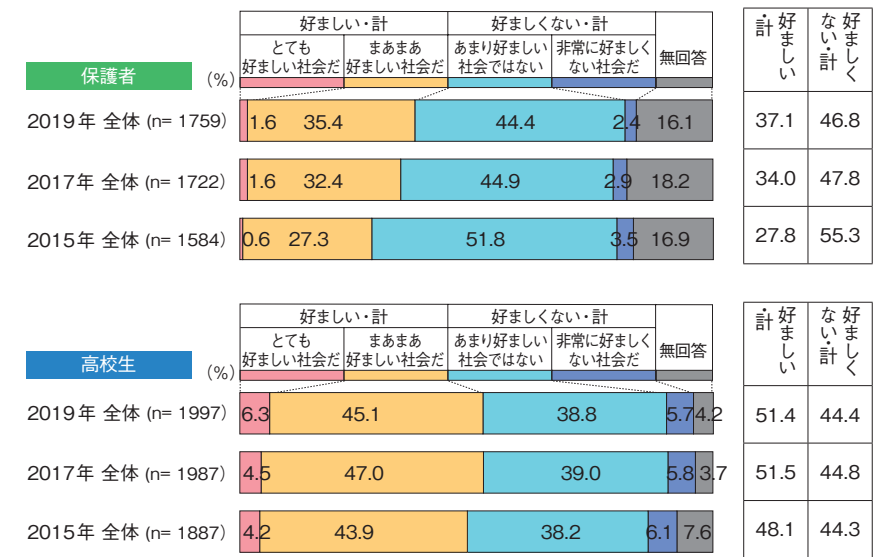
いようだ。保護者としては将来“わが子”が生きる社会に対して心配の種が尽きない。一方、好ましいとする理由は、男女格差の縮小等の不の解消、IT化やグローバル化等の推進とともに、多様な価値観や新しい発想が認められる開かれた社会への変化等が挙げられる。保護者の時代に比べて、個性が尊重され、生き方の選択肢が増える世の中になることへの期待が感じられる。

今回の調査を通じて見えたのは、大きく3点。第1に、入学者選抜の方法として導入される共通テストへの不安は大きかったものの、高大接続改革の趣旨は好感を持って受け入れられていること。その背景としては、予測困難で変化の激しい未来社会を生き抜いていくために、保護者も高校生も“武器”となる能力を身につける必要性を感じていることである。

第2に、個別大学が対応を迫られている改革では、主体性等の評価については不安があるものの、AO入試や推薦入試の学力評価の必須化、アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜等については期待が高い。最新の入試情報の不足を理由に、子どもと共に進路選択行動をしたい保護者の関与が強まっている状況も浮かび上がっており、各大学は入学者選抜改革に関わる対応について、保護者も意識しながら、分かりやすい情報提供を行うことが求められる。

3点目として、高校では2022年度から年次進行で導入される学習指導要領の柱となる「探究学習」や「主体

図表13 保護者 高校生 これからの社会は好ましい社会か(全体/単一回答)



保護者	高校生
<p>■好ましい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様性が認められている社会だから。 ●従来の価値観にとらわれない新しい発想が求められる時代だから。 ●グローバル化で視野を広げていき、語学をはじめ様々な知識を身につけて活かしていけることができるため。 ●IT化が進む中、働き方・学び方が多様化、国際化し、選択肢が増えたため。 ●男女格差の縮小、選択の自由の拡大。 <p>■好ましくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●AIの普及や海外からの労働者の増加により、より高度な能力を要求されるようになるから。 ●SNSやスマホの普及により、様々な場面で色んな問題が起こり、規制が増えていくであろうから。 ●親の経済力で子どもの将来がきまるから。 ●環境問題や年金問題、また高齢化社会になっていくことへの問題などすべて先送りになっているので。 	<p>■好ましい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル化になっていくので、自ら発信していく力が必要であり、多くの人と交流できるから。 ●働き方改革や男女平等など社会問題に社会全体で取り組んでおり、改善されていくと思うから。 ●女性も働きやすくなっているから。 ●個性ある人に活躍のチャンスがあるから。 ●若者に希望をもつ社会になってきていると思うから。 <p>■好ましくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これからAIの時代になり、人手が余り、職につくことができるか不安だから。 ●SNSなどで大量の情報が飛び交うから、これからどうなっていくのか予想しづらいから。 ●オリンピックが終わったら景気が良くなるから。 ●ブラックな企業が増えているから。

的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)による授業改善は、保護者も高校生も期待が高く、高校現場でも導入が進みつつあること。こうした教育を経た高校生が高等教育機関に進学するのは2025年度以降だが、入学する学生の質は今までと明らかに変わるはずである。高校生、保護者、生徒を進学させる高校の期待に応え、大学教育がその変化に対応していかなければならない。

なお、今回の調査は本誌発行の7カ月前の実施のため、共通テストの見直しや新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、その連鎖での景気後退の影響は反映されていない。次回2021年の調査時には、これらの影響とともに、大学改革の進展や新しい学習指導要領の導入がどのような結果をもたらすのか、引き続き動向を注視していきたい。

(本誌 池内摩耶・編集部)